

トランプの圧勝

児玉 寛嗣

大接戦になると予想されていたアメリカ大統領選挙。あっけなく、トランプ候補圧勝で決着した。選挙戦をある面から見るとトランプの作戦勝ちだったようだ。

彼の手法はハリス候補を支持する民主党寄りの有権者に自分の政策を提示して翻意を促して支持を求めるというものではない。フェイクでもよいから、民主党や現職の副大統領のハリス自身の資質やその政策を徹底的に非難して、アンチ民主党だった有権者の票の掘り起こしを徹底的にやった。また、日本であれば当然違法となるような行為も見られた。それらが成功したようだ。

フェイクの典型は移民政策をとっている民主党を非難した「移民がペットの猫を食っている」という発言。普通の人はありえないと思うだろう。だが、当初は投票に行く気はなかったが、常々アンチ民主党だった有権者はその発言に賛同してトランプに投票したのかもしれない。

さらにはトランプ支持を表明していた実業家のイーロン・マスク氏のとった行動だ。毎日有権者一人に百万ドル（約一億五千万円）を贈呈するキャンペーンを選挙当日まで行ったこと。これもトランプへの投票拡大行動を後押ししたことだろう。これにはある民主党の検事が違法であり即中止と訴えたが、裁判官はその主張を退けたようだ。

一部の専制国家を除いて、大多数の国では大統領や首相は選挙で選ばれるという形式をとっている。しかし、政権を握っている時の政府が立候補資格を厳しく制限したり、有力な対立候補をいわれのない理由をつけて国外追放、逮捕、さらには暗殺したりする、いわゆる「なんちゃって民主主義」の国が多い。その旗頭はロシアだ。

一方、アメリカは自由・民主主義の旗頭と言われてきた。アメリカの憲法には「信教、言論、集会、請願の自由を妨げることが禁止する」と書かれている。トランプは憲法の精神を利用して勝ったとも言える。勝ったからには奇策を弄してでも各所で起きている戦争を早く終わらせることを期待したい。